

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-207948

(43) 公開日 平成9年(1997)8月12日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 33/00			B 6 5 D 33/00	C
77/32			77/32	
// B 6 5 D 75/66			75/66	

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平8-15689

(22) 出願日 平成8年(1996)1月31日

(71) 出願人 000122896

岡田紙業株式会社

大阪市中央区北久宝寺町4丁目4番16号

(72) 発明者 桜井 至康

大阪府大阪市中央区北久宝寺町4丁目4番
16号 岡田紙業株式会社内

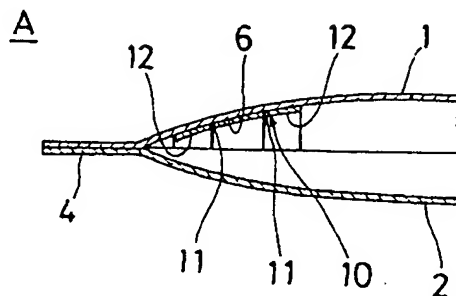
(74) 代理人 弁理士 葛田 璋子 (外1名)

(54) 【発明の名称】 包装袋

(57) 【要約】

【課題】 表裏体一方の内面に貼着した開封用テープを利用するイージーオープン用の開封手段を備える包装袋において、引裂き開口操作を容易に失敗なく確実に行なえるようにする。

【解決手段】 袋体Aの表裏体1, 2の一方の内面に細幅の開封用テープ6を貼着し、表裏体1, 2の接合部3内における前記テープ6の一端側貼着部分をテープ幅より広幅のつまみ片7として表裏体の一方とともに切込み形成し、気密性を保持した状態で袋外より切り起こし可能に設け、このつまみ片7の引張りにより引裂き開口させるような袋において、つまみ片7を形成する切込み8を、テープ6を横切る切込み部分8aの両端からテープ6の外方部分を回って該テープ内に僅かに侵入して再びテープ外にまで延びて終端するように形成する。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】合成樹脂フィルムまたは合成樹脂フィルムを含む複合体よりなる袋体の表裏体の一方の内面に、細幅の開封用テープを貼着し、表裏体の接合部内における前記開封用テープの一端側貼着部分をテープ幅より広幅のつまみ片として前記表裏体の一方とともに切込み形成して、気密性を保持した状態で袋外より切り起こし可能に設け、このつまみ片の引張りにより前記表裏体の一方を引裂き開口させるようにした包装袋において、前記つまみ片を形成する切込みを、開封用テープを横切る切込み部分の両端から開封用テープの外方部分を回って該テープ内に僅かに侵入して再びテープ外にまで延びて終端するように形成してなることを特徴とする包装袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、イージーオープン機能を有する合成樹脂フィルム製の包装袋に関するものである。

【0002】

【従来の技術と発明が解決しようとする課題】従来より、例えば菓子類や漬物その他の食品の包装には合成樹脂フィルムまたは該フィルムを含む複合体よりなる袋が多用されている。このような包装袋において、比較的引き裂きが困難なフィルムを容易に開封操作できるようにした、いわゆるイージーオープン機能を有する包装袋がある。

【0003】かかる包装袋のイージーオープン用の開封手段として、細幅の開封用テープを表裏体の一方の内面に貼着し、該テープを引張ることにより表裏体の一方を引裂き開口できるようにしたものが知られている。

【0004】この包装袋の開封手段について説明すると、図6および図7に示すように、例えば合成樹脂フィルムよりなる袋体(A)の表裏フィルム(51)(52)の一方の内面に、開封用テープ(56)を貼着し、この開封用テープ(56)の一端部を表裏フィルム(51)(52)と共に熱接着手段又は接着剤等により接合するとともに、該接合部(53)内の前記開封用テープ(56)の貼着部分を含む中央部を非接合状態に残余させ、この非接合部(53b)における開封用テープ(56)部分を略C形の切込み(58)によりテープ幅より広幅のつまみ片(57)として形成して、気密性を保持した状態で袋外より切り起こし可能に設け、このつまみ片(57)の引張りにより前記表裏一方のフィルム(51)を引裂き開口させるようにしている。

【0005】前記の開封用テープ(56)としては、図示するように、長手方向に2条のスリット(61)(61)を所定間隔を置いて形成した広幅のテープ状フィルム(60)を一方のフィルム(51)の内面に貼着して、前記両スリット(61)(61)間を開封用テープ(56)として利

用することが多い。

【0006】前記構造の開封手段において、切り起こし可能なつまみ片(57)を形成する略C形の切込み(58)については、通常、その切込み端(58c)(58c)が開封用テープ(56)の外方部を回って該テープ(56)の側端で終端するように、前記両切込み端(58c)(58c)間の間隔が開封用テープ(56)の幅と一致するように設計されている。

【0007】しかしながら、実際の製袋段階においては、前記のように設計されていても、テープ幅の誤差や切込み位置の誤差等のために、前記切込み端(58c)(58c)が開封用テープ(56)の側端、すなわちテープ状フィルム(60)に形成されたスリット(61)(61)に一致せずに終端した状態になることがある。

【0008】この場合、前記つまみ片(57)を持って、図7のようにテープと略平行方向に引張った時、開封用テープ(56)の側端からずれた前記切込み端(58c)の部分に力がかかることになり、その結果、開封用テープ(56)の側端に沿って容易に引裂き開封できないことになる。

【0009】特に前記のように広幅のテープ状フィルム(60)のスリット(61)(61)間を開封用テープ(56)とした場合、前記切込み端(58c)がテープ状フィルム(60)の外側部分(62)に位置することになり、一層引き裂き難くなる。また開封用テープ(56)に対し斜めに力を加えたときにも引裂き難く、仮に無理に引裂いたとしても引裂きによる破断線が歪んだり、開口縁の見栄えが悪くなる。

【0010】本発明は、上記に鑑みてなしたものであり、前記の内面に貼着した開封用テープを利用するイージーオープン用の開封手段を備える包装袋において、前記の引裂き開口操作を、容易に失敗なく確実にこなせるようにした包装袋を提供しようとするものである。

【0011】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決する本発明は、合成樹脂フィルムまたは合成樹脂フィルムを含む複合体よりなる袋体の表裏体の一方の内面に、細幅の開封用テープを貼着し、表裏体の接合部内における前記開封用テープの一端側貼着部分をテープ幅より広幅のつまみ片として前記表裏体の一方とともに切込み形成して、気密性を保持した状態で袋外より切り起こし可能に設け、このつまみ片の引張りにより前記表裏体の一方を引裂き開口させるようにした包装袋において、前記つまみ片を形成する切込みを、開封用テープを横切る切込み部分の両端から開封用テープの外方部分を回って該テープ内に僅かに侵入して再びテープ外にまで延びて終端するように形成してなることを特徴とする。

【0012】

【作用】上記した本発明の包装袋によれば、表裏体の一方に貼着された開封用テープの貼着部分に形成されたつまみ片(57)を形成する略C形の切込み(58)については、通常、その切込み端(58c)(58c)が開封用テープ(56)の外方部を回って該テープ(56)の側端で終端するように、前記両切込み端(58c)(58c)間の間隔が開封用テープ(56)の幅と一致するように設計されている。

まみ片、特に表裏体の接合部内において切起し可能に設けられたつまみ片を持って引張れば、該開封用テープの両側縁に沿って表裏体の一方を開封用テープに相当する幅で引裂き開口できる。

【0013】特に、前記のつまみ片を形成する切込みは、開封用テープを横切る切込み部分の両端から開封用テープの外方部分を回って該テープ内に僅かに侵入して再びテープ外にまで延びて終端するように形成されてくびれ形状をなしているため、これによって製袋上の僅かな誤差を吸収できて、切込みの両端部分がテープ両側端と必ず交叉することになる。そのため、つまみ片を引張して開封操作を開始した時、その引張力が開封用テープの前記切込みによるくびれ部分から切込み端側の部分に作用し、前記テープ両側端に沿って失敗なく確実にかつ容易に引裂き開口させることができる。

【0014】また広幅のテープ状フィルムに2条のスリットを入れて、両スリット間を開封用テープとして形成した場合においても、前記のくびれ形状の切込みの両端部分が前記開封用テープの両側端のスリットを横切ることになるため、テープ状フィルムの外側部分がフィルムに貼着されていても、該スリットに沿って確実に引裂き開口させることができる。

【0015】

【発明の実施の形態】次に本発明の実施の形態を図面に基いて説明する。

【0016】図において、(1)(2)はナイロン、ポリエステル、ポリエチレン、ポリプロピレンその他の熱可塑性の合成樹脂フィルムの単独または複合体よりなる表裏体であり、この表裏体(1)(2)は両側縁および上下縁で熱接着手段または接着剤等により接合されて、袋体(A)が形成されている。(3)(3)は両側縁の接合部を示し、(4)は上縁部の接合部、(5)は下縁部の接合部を示している。通常、上下縁の一方は包装商品の収納後に接合される。

【0017】袋体(A)の形態としては、図のように表裏体(1)(2)の下縁部を単に接合して底部とした平形の袋のほか、表裏体に連続する底部を二つ折りのガット状に折込み挿入して、その両側端部を表裏体の両側接合部において一体に熱接着手段または接着剤等により接合することにより、容量が大きくかつ自立性を有する袋とすることもできる。また前記底部を表裏体とは別のフィルム材により形成して、折込み部の下縁部を表裏体の下縁部と接合した自立性袋として構成することもできる。

【0018】前記の袋体(A)における表裏体(1)(2)の一方、例えば表側体(1)には、上縁部近傍の所要箇所において、図のように、袋横断方向に延在する細幅の開封用テープ(6)を内面に貼着し、このテープ(6)の両端部を表裏体(1)(2)とともに接合するとともに、一端側の接合部(3)のテープ貼着部付近を

拡大して接合し、この拡大した接合部(3a)内のテープ貼着部分を含む中央部を非接合状態に残存させて、この非接合部(3b)における開封用テープ(6)の部分のテープ幅より広幅のつまみ片(7)として前記表側体(1)とともに切込み形成して、気密性を保持した状態で袋外より切り起し可能に設けている。(8)はその切込みを示す。

【0019】図の場合、開封用テープ(6)より広幅のポリエステルやポリエチレン等のテープ状フィルム(10)を、その端部が表裏体(1)(2)の接合部(3)に位置するように表側体(1)の内面に熱接着手段等により貼着するとともに、このフィルム(10)の幅方向中央に前記開封用テープ(6)に相当する間隔を存して2条のスリット(11)(11)を長手方向に形成しておいて、この両スリット(11)(11)間を開封用テープ(6)として形成しており、非接合部(3b)内の開封用テープ(6)の貼着部分をつまみ片(7)として切込み形成している。(12)(12)は前記フィルム(10)のスリットより外側部分を示す。

【0020】前記のつまみ片(7)を形成する切込み(8)は、図のように、開封用テープ(6)を横切る切込み部分(8a)の両端から開封用テープ(6)の外方部分を回って該テープ(6)内に僅かに侵入し、さらに外向きに屈曲して再びテープ(6)外にまで延びて終端するように形成されている。(8b)(8b)は屈曲部を示し、(8c)(8c)は切込み端を示す。

【0021】この切込み(8)の形状により、製袋上の僅かな誤差を切込み(8)により吸収できて、切込み(8)の両端部分、特に屈曲部(8b)から切込み端(8c)側でテープ両側端、つまりスリット(11)と交叉することになる。

【0022】そのため、内容物を取り出す際、つまみ片(8)を持って引張り開封操作を開始した時、その引張力が開封用テープ(6)の前記切込み(8)によるくびれ部分から切込み端(8c)側の部分に作用し、前記テープ(6)の両側端に沿って失敗なく確実にかつ容易に引裂き開口させることができる。特に図のように広幅のテープ状フィルム(10)にスリット(11)(11)を入れて、その間を開封用テープ(6)とした場合においても、前記切込み(8)がスリット(11)(11)を横切ることになるため、テープ状フィルム(10)の外側部分(12)が表側体(1)に貼着されていても、前記スリット(11)(11)から開封用テープ(6)が切離されると同時に、表側体(1)も引裂き開口されて、スリット(12)に沿って確実に引裂き開口させることができる。この場合、テープ状フィルム(10)の外側部分(12)(12)は表側体(1)の開口縁に残り、開口縁がきれいになる。

【0023】なお、上記の開封用テープ(6)による開封手段は、図のように、上縁部近傍に袋横断方向に設ける

ものに限らず、中央部等の他の個所に設けることも、また縦方向に設けることもでき、収容物や開封状態等との関係で適宜設定できる。また前記の開封手段と別に、引裂き開口した後の袋開口部を開閉できるように、表裏体の内面に互いに係合する凸部と凹部とによるファスナー等の開閉手段を設けておくこともできる袋体(A)をの表裏体(1)(2)に使用する素材として、上記した合成樹脂フィルムよりなるもののほか、合成樹脂フィルムとアルミ箔や紙等の他の素材との複合体を使用することもできる。

【0024】

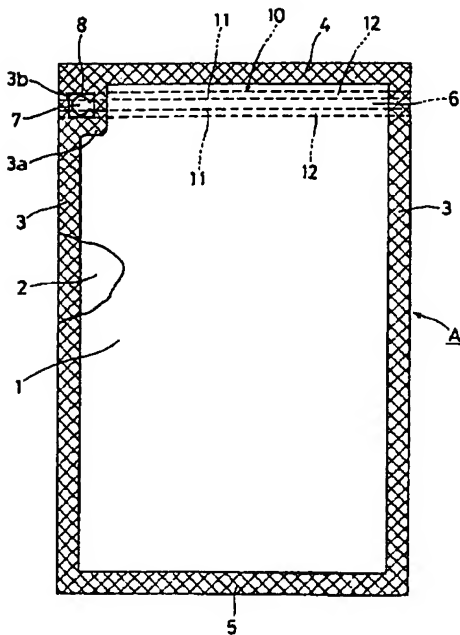
【発明の効果】上記したように本発明によれば、開封用テープの一端側のつまみ片を形成する切込みを、開封用テープの外方部分を回って該テープ内に僅かに侵入して再びテープ外にまで延びて終端する形状にしたことにより、製袋上の誤差、例えばテープ幅や切込み位置の僅かな誤差を吸収して、切込みが必ずテープ側端を横切ることになるので、該テープ側端に沿って確実にかつ綺麗に失敗なく引裂き開口させることができる。

【図面の簡単な説明】

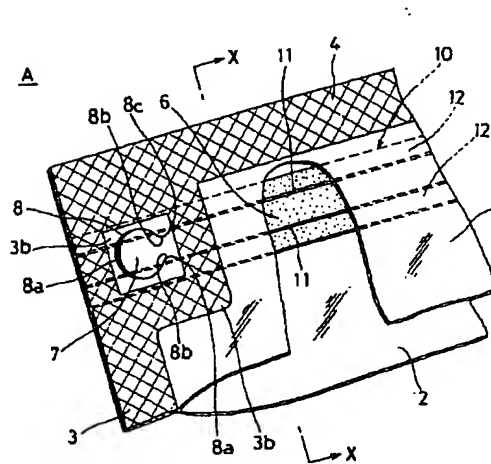
【図1】本発明の1実施形態を示す一部欠截正面図である。

【図2】開封手段部分の一部の拡大斜視図である。

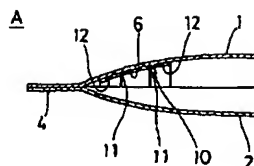
【図1】



【図2】



【図3】



【図3】全図のX-X線の拡大断面図である。

【図4】開封操作開始時の状態を示す拡大斜視図である。

【図5】同上の開封途中の一部の斜視図である。

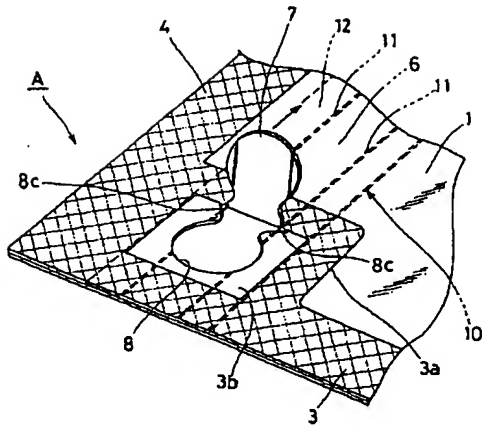
【図6】従来構造の包装袋の開封手段部分の正面図である。

【図7】同上の開封操作開始時の状態を示す拡大正面図である。

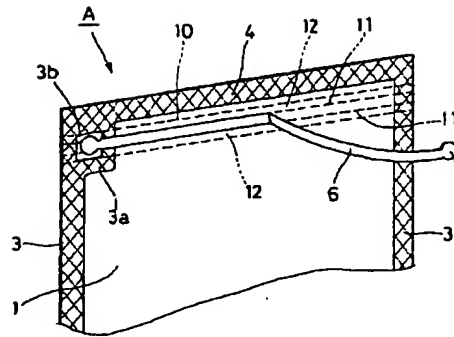
【符号の説明】

- (A) 袋体
- (1)(2) 表裏体
- (3)(3) 両側縁の接合部
- (3a) 拡大した接合部
- (3b) 非接合部
- (4) 上縁部の接合部
- (5) 下縁部の接合部
- (6) 開封用テープ
- (7) つまみ片
- (8) 切込み
- (8b) 屈曲部
- (8c) 切込み端
- (10) テープ状フィルム
- (11)(11) スリット

【図4】



【図5】



【図7】

